

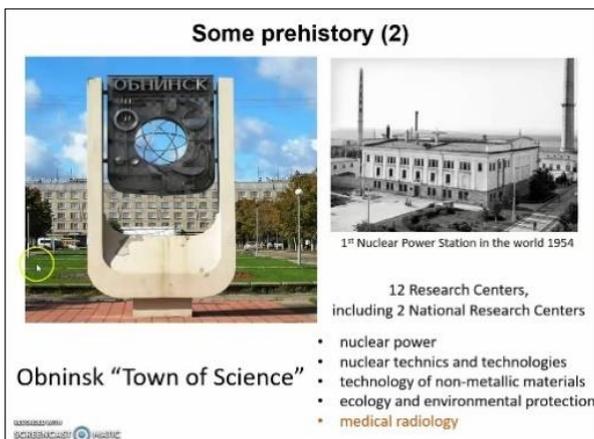


ご尽力いただいた皆様に深く敬意を表しますとともに、設立 30 周年お祝いします。
「前世紀」の NASHIM 研修生として、短いプレゼンテーションではありますが、私の回想と思い出をご紹介しますと思います。



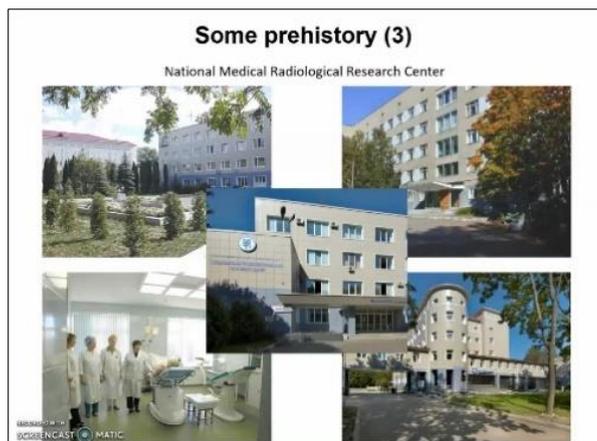
皆さんこんにちは
私は 1999 年に NASHIM プログラムの研修生として参加した、長崎大学原爆後障害医療研究所のウラジミール・サエンコです。
本シンポジウムに参加される皆様にご挨拶申し上げますとともに、講演の機会を与えていただいた主催者に感謝いたします。
最初に、長崎・ヒバクシャ医療国際協力会 (NASHIM) の設立 30 周年にお祝いを申し上げます。
NASHIM は、前会長の井石先生、蒔本先生、そして現会長の森崎先生のご指導のもと、その崇高な使命を果たしてきたのは、実には一世代に亘る時間であります。

まず、事前情報として私のことをお話しします。
私の故郷はオブニンスクという町で、モスクワの南西 100 キロに位置し、長崎からはかなり離れています。
オブニンスクの人口は長崎の 4 分の 1、10 万人を少し超える程度です。

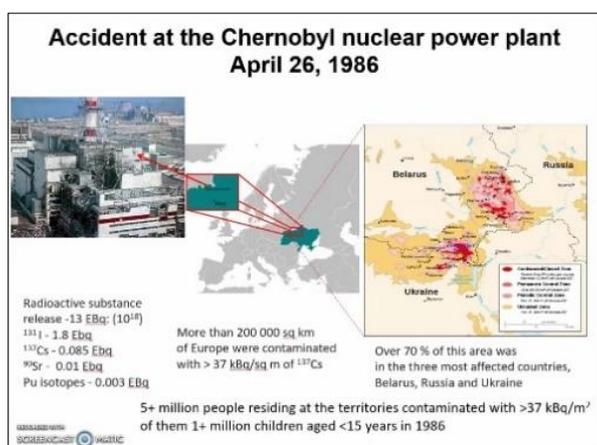


左の写真はオブニンスクのシンボルで、その中央には原子の模型が描かれています。
これは、1954 年に建設された第一原子力発電所によって、この街はいわゆる「平和のための原子力」とされ、原発とは切っても切れない関係にあることを強調するためです。
現在オブニンスクには 12 の研究センターがあり、そのうち 2 つは国立で、「科学の町」として知られています。これら研究所の主な科学分野は、原子力、原子力技術・テクノロジー、非金属材料技術、環境学・環境保護、医療放射線学などです。

ご覧のとおり、最後の医療放射線学に色を付けたのは、日本に来る前の私がこの科学分野に属していたからです。



これが放射線医学総合研究所で、私が働いていた場所です。



チェルノブイリ原子力発電所の事故は、旧ソ連のウクライナ北部、ベラルーシやロシアとの国境に近い場所で発生しました。

結果として、膨大な量の放射性物質が環境中に放出されました。広範囲に渡り、放射性降下物により激しく汚染されました。人口に対する健康影響として最もよく知られているのは、若くして放射線を浴びた汚染地域の住民に甲状腺がんの発生率が急増したことです。

私が勤務していたオブニンスクの医療センターは、事故当初からチェルノブイリ周辺の医療・研究活動に携わっていました。



日本の医師や研究者は、広島・長崎の原爆投下の経験に基づき、チェルノブイリ事故の健康影響評価についていち早く協力・助言を行いました。

笹川記念保健財団はウクライナ、ベラルーシ、ロシアに5つの診断センターを建設し、移動診断チーム用の機材も提供いただき、非常に大きな支援を受けました。

左の写真に写っているのは、山下先生、柴田先生、伊東先生です。右の写真は、どこかなつかしさを感じさせるものです。約30年前、オブニンスクで行われた日露の医師・研究者の会合で撮影されたものです。日本人では、放射線影響研究所の理事

長だった重松先生、笹川財団の紀伊國先生、山下先生などが知られています。一番右の参加者が若かったころの私ですが、わかりにくいかもしれませんね。その時は、後に長崎大学の教授となる山下先生のすぐ近くに座っているなんて、想像もできませんでした。

Contacts with colleagues from Japan

- 1991-1994 visits of the Japanese teams to Obninsk and Moscow
- 1994 Jul-Aug training at Hiroshima RERF in frame of the WHO IPHECA program
- 1995-1996 postdoc training in Albert Einstein College of Medicine, Bronx, NY, USA
- 1997-1998 visits of the Japanese teams to Obninsk and Moscow (山下俊一先生)
- 1999 Jul-Aug invitation to the NASHIM summer program in Nagasaki



ここでは、1990 年代初頭からの日本チームとの連携を簡単にご紹介します。

WHO の IPHECA プログラム（チェルノブイリ健康影響調査国際プログラム）の枠組みで 1994 年 7 月から 8 月にかけて行われた広島放射線影響研究所での研修が、私にとって最も直接的な日本での経験となりました。博士研究員としてアメリカで過ごした 2 年を除いて、日本の仲間との交流は続いており、主には山下先生と連絡を取っていました。

やがて、1999 年に NASHIM の夏季プログラムに招待される幸運に恵まれました。

NASHIM training course in 1999 July-August



First meeting at NASHIM office

Orientation at Igakubu (by SY and NT)



こちらが 1999 年 7 月、8 月の素晴らしい思い出です。当時はまだデジタルカメラも携帯電話もない時代ですから、実際の写真をスキャンしたものです。左は研修初日、山下先生と高村先生によるオリエンテーションでした。ベラルーシ、カザフスタン、ロシアから合計 7 名、それからアメリカから 1 名、ハンフォード核貯蔵所のサンディ・ロック博士が参加しました。右は、NASHIM 事務所での初回ミーティングと、当時の会長でした井石先生と初めてお会いしたときのものです。

NASHIM training course in 1999 July-August



Visits to the Prefectural and Municipal offices



県庁、市役所を訪問しました。このような重要なオフィスに、高価な家具や気取った家具がなく、すべてビジネスライクであることにとても感銘を受けました。

NASHIM training course in 1999 July-August



Visits to the advanced Hospitals
Red Cross Hospital
Nagasaki University Hospital
Hamayu Hospital at Amakusa, etc.



長崎原爆病院、大学病院、はまゆう療育園など、長崎市内や近郊のとても良い病院を訪問することができ、とても興味深かったです。

どこを訪れても、患者を大切に、最善を尽くしているのがよくわかりました。

NASHIM training course in 1999 July-August

Self-introduction at the Welcome Party



Radiation Symposium at Igakubu



公式の会議もありましたし、医学部のポンペホールで科学シンポジウムを開催し、ロシアでのチェルノブイリ甲状腺がんの分子生物学的研究についての話をしたこともあります。

NASHIM training course in 1999 July-August

Attending the Memorial Ceremony on August 9 at Peace Park



8月9日の「原爆の日」の追悼式に参加したことは、とても心が動かされる出来事でした。

5年前の8月6日、広島での追悼式に参加しました。広島と長崎の平和公園は全く異なりますが、原爆で亡くなった方々への思いや願い、大切に守られてきた記憶、そして平和への訴えと努力は同じものでした。

NASHIM training course in 1999 July-August

Practical research in the laboratory



Acquaintance with the Japanese culture

(茶道)



研修の後半では、設備の整った研究室で実験をしたり、日本の文化に触れたりする機会もありました。

NASHIM training course in 1999 July-August

Concluding meeting at NASHIM office, awarding the Certificates of NASHIM Trainees



この写真は、NASHIM 事務所で研修の修了証書をいただいた後に撮影したものです。繰り返しになりますが、とても懐かしく良い思い出です。



ることができませんでした。

パンデミックが収束し、コントロール下に置かれた後、NASHIM が素晴らしいプログラムを再開できるようになることが私の希望であり願いです。

NASHIM activities...

- Provide excellent opportunity for medical doctors of various specialties and researchers to learn the most advanced treatment approaches and scientific investigation methodology ultimately aimed at the improvement of healthcare to people exposed to radiation and other health-threatening conditions. After returning back from Nagasaki, they use this knowledge at their institutions.
- Bring people from different countries together facilitating friendly and professional relationships.
- Contribute to people/civil/citizen diplomacy which is an essential component of peace work.

NAGASAKI UNIVERSITY SCIENCE CITY NASHIM

2000年に長崎大学に着任してからは、客員教授、助教授、そして准教授として勤務しています。現在この役職に誇りを感じています。

この20年余りの間、私は毎年NASHIMの研修コースに関わり続けてきました。ただし研修生としてではなく、他の長崎大学の教授や同僚と同じように、講師やインストラクターとして参加しました。そのため、私の講演タイトルは「NASHIMでの数十年の経験」としたのです。

残念ながら、この2年間はコロナウイルスのパンデミックによりNASHIMの研修が中止となり、夏には研修生を受け入れ

最後に、NASHIMの活動を改めてご紹介しておきます。様々な専門分野の医師や研究者が、放射線被ばく者やその他の健康被害を受けた人々の健康向上のため、最先端の治療アプローチや科学的調査方法を学ぶ素晴らしい機会を提供しています。

長崎から帰国した後、彼らはその知識を各機関で活かしています。さまざまな国の人々が集まり、友好的で専門的な関係を促進します。平和活動に不可欠な人間・市民・市民外交に貢献しています。

Special thanks to

- People of Nagasaki Prefecture, the taxpayers, whose hard work makes NASHIM activities possible
- Nagasaki Prefecture and NASHIM management members for efficient functioning
- Nagasaki Medical Association members and supporters
- Hospitals in Nagasaki city for their kind cooperation
- Nagasaki University professors, doctors and researchers for generous sharing their knowledge, medical experience and scientific skills with NASHIM trainees

Congratulations on the 30th Anniversary of NASHIM and cordial wishes of sustainable work and further development and achievements!

NAGASAKI UNIVERSITY SCIENCE CITY NASHIM

最後に、以下の方々に深く感謝いたします。NASHIMの活動を支えている納税者である長崎県民の皆様、効率的に機能できるよう支えてくださる長崎県とNASHIMの運営メンバーの皆様、長崎県医師会会員・賛助会員の皆様、ご協力いただいた長崎市内の各病院の皆様、知識、医療従事者としての経験、科学技術をNASHIM研修生に惜しみなく提供していただいている長崎大学の教授、医師、研究者の皆様。

NASHIM 設立 30 周年、改めておめでとうございます。今後のさらなるご発展とご活躍をお祈り申し上げます。